# 2015年度子どもたちの“こころを育む活動”表彰
# 受賞団体 活動紹介

全国大賞

## 鹿角市立八幡平中学校（かづのしりつはちまんたいちゅうがっこう）
【秋田県鹿角市】

### 郷土愛を育み、人間関係力を培う
### 八幡平（はちまんたい）ボランティアガイド

活動領域：**学校** 家庭 **地域** 企業
3つのこころ：**自分に** **他者に** **社会に**

**選考理由**
ボランティアガイドという発想が、地域を知り、伝える活動として教育に落とし込まれ、中学生のこころを育む環境づくりに役立っています。このサービスラーニングの視点から学びを地域に生かす取り組みは、今後、東京オリンピックを視野に入れ、広がりが期待される活動です。子どもたちはガイドを通して学び合い、他者と関わりつつ郷土愛を育んでおり、その経験は対面コミュニケーションの訓練になっています。

## 活動内容

### 地元への誇りと、人や地域社会への適応力を育む

素直で素朴な生徒たちに、もっと自分の考えを表現し、地元に関わって生きる気概を持って成長してほしいという願いが、活動のきっかけとなりました。

自然豊かな八幡平で育つ中学生たちは、ふるさとの良さを再認識し、地元への誇りや人間関係力、自己肯定感を培うことを目的として、八幡平のボランティアガイドを行っています。

大沼・後生掛の2コースがあり、異学年の縦割りで編成された班（4・5人）が、1日3組を目標に2日間実施します。

ガイドの際は、初対面の観光客に声をかけるところから始めます。事前にガイドの心構えを身につけ、ガイド内容を覚え、興味を持っていただくための工夫もしています。

さらに、活動の展開においては、地域の学校や観光団体と連携して会場提供や練習協力の支援を受けるなど、地域全体の取り組みとして広がっており、地域活性化への期待も高まっています。

中学生たちが、地元・八幡平を魅力的にガイド。写真は、後生掛コース・紺屋地獄の説明風景。

タブレットを使って植物を説明する様子。

紙芝居や看板などを作り、伝え方もひとと工夫。

## 注目ポイント

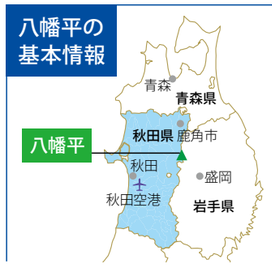
### ●タブレットを効果的に活用

タブレットを使って資料の検索や現地の写真撮影、内容のまとめを行い、ガイドの際の説明資料として現地で利用しています。ガイドは秋に行いますが、植物や風景を説明するときには、他の季節の写真も用意するなど、内容を充実させることで、より興味を持って見ていただけます。

### ●興味を引き出す工夫いろいろ

ポスターやパンフレット、看板や紙芝居などを作成し、よりわかりやすく印象的に伝える工夫をしています。また、手作りの名刺やお米のお土産を渡すことで、観光客の方がご自宅に帰っても地域をPRする材料になります。

**八幡平の基本情報**




八幡平は、秋田・岩手の両県にまたがる台地状火山です。那須火山帯に属し、火山帯特有の地形や温泉、美しい景観に恵まれた八幡平地域は、昭和31年に十和田国立公園に追加され、十和田八幡平国立公園となりました。

## ガイド活動の流れ

**6月** ふるさとを学ぶ
その年の企画内容決定後、班編成を行い、ガイダンスで子どもたちに主な内容や心構えなどを説明します。
案内ポイントは、大沼・後生掛の2コースで各6箇所あり、各班は、担当するポイントの説明内容を作ります。基本の内容として最初に説明マニュアルを読み込み、次にタブレットで検索した内容なども加えた補助資料を用意しておきます。

**6月～** 準備活動/校内
説明内容を覚えて校内で練習を重ねます。小道具の作成はこの頃から順次行います。

**7月** 準備活動/現地
外来種の駆除活動とともに、説明ポイントの確認と現地練習を行います。また、このとき夏の草花の写真なども撮影しておき、本番の説明資料に加えます。

**9月** 準備活動/校内シミュレーション
隣接する八幡平小学校や、ガイドで交流のある中学校の生徒に協力していただき、校内で模擬ガイドを行います。山の案内人の方々からもアドバイスをいただきます。

**10月** 準備活動/現地直前
本番1週間前に行う現地でのガイド練習は、山の案内人の方々に助言をいただきながら実際のガイドコースで行います。

**10月 第2週の土日** ガイドの実践
当日は、観光客の方に声をかけるところからスタート。断られることもありますが、勇気を持って初対面の方に何度も声をかけます。
ご案内する方には、最初にガイドコースと所要時間を確認し、了承が得られてはじめてガイドが始まります。
案内ポイントでは、担当の各班が、見どころに合わせて説明。季節外の写真など、タブレットに用意した補足資料も活用します。また、次のポイントへ移動する間のフリートークも大切にしながら、しっかりと地域の魅力を伝えます。
終了後にはアンケートにご協力いただき、1年生が昨年収穫したお米と名刺をお渡しします。

**10月** 活動報告
報告会 ガイド実施の2週間後
報告会では、自分たちのガイド活動についてまとめ、ガイドを通して学んだことをそれぞれ報告します。また、学んだ内容は、随時ホームページや学習発表会、広報に活用するほか、後輩へのアドバイスや感謝の手紙なども掲示します。

**大沼コース**
大沼は、周囲約1.2kmの断層湖※で、周辺の草花や湖の生物などについてガイドをしています。
※地滑りや地震などによる窪地に水が溜まってできた湖。

**後生掛コース**
「馬で来て、下駄で帰る後生掛」と言われる湯治場・後生掛温泉から火山現象が実感できる6つのポイントを回ります。

高齢者を気遣いながら移動。

### 子どもたちの変化・成長
### 苦労も感動も成長の糧に

班の編成が、異学年の縦割りであることから、上級生はリーダーシップを発揮する機会となり、それぞれの人間関係力向上につながります。また、担当箇所の説明を魅力的なものにするための資料や道具作りなどに工夫や努力が見られます。

勇気を持って初対面の観光客に声をかけ、10回連続で断られた班もあります。それでも挨拶や笑顔は絶やさずに、仲間と励まし合いながら活動を続けます。それだけに、案内した方からのお礼の手紙は、やる気につながります。ガイドする相手が外国人の場合は英語を使い、高齢者の場合はペースや足下に気をつけるなど、自然に相手を気遣う姿勢が養われています。

片言の英語で外国人にも対応。

## 活動の展開

3年間の活動で、地域団体との協力体制が確立。ガイド活動の進行を支えています。

ガイダンス全体ミーティングの様子。

**八幡平中学校 / 教員**

ふるさと・キャリアプロジェクト［校内プロジェクトチーム］ → 企画・提案 → 企画委員会［校長・教頭・教務主任・研究主任・学年主任・分掌部長］

6月のガイダンスに向けて企画内容の協議を重ね、班を編成。ガイダンス後は、案を基に指導・サポートを進める

↓ 協議・承認

**八幡平ボランティアガイド推進委員会**
八幡平中学校教員［校長・教頭・八ボラ担当］
協力団体［観光協会・案内人協議会・ビジターセンター・その他各施設代表］

6月 ガイダンス時に説明・アドバイス

**八幡平中学校 / 生徒**

6月～当日
生徒会・実行委員会・班長会と具体的な実施案を協議。決定内容を伝え、指示する。

↓ 協議・承認

生徒会執行部［生徒会長・副会長・書記長］

↓ 協議・承認

**八幡平ボランティアガイド実行委員会**
八幡平中学校生徒［生徒会長・副会長・書記長・大沼班班長・御生掛班班長］

↓ 協議・承認

班長会議［生徒会長・副会長・書記長］

↓ 協議・承認

後生掛班 全12班 / 大沼班 全12班

他校を招いての校内シミュレーション。

9月 校内シミュレーション

意見聴取・協力依頼

7月・10月 現地指導 当日会場提供

**協力団体・連携先（協力内容）**

- ●十和田八幡平観光物産協会（まちの案内人事務局）
- ●八幡平ビジターセンター（実施本部会場提供、ガイド練習協力）
- ●後生掛温泉（後生掛班休憩所提供）
- ●まちの案内人協議会 山の案内人（ガイド練習・現地練習協力）
- ●鹿角市教育委員会（ふるさと生き生きネットワーク事業）

連携協力

**連携先**

- ●八幡平小学校（校内シミュレーション協力）
- ●尾去沢中学校（校内シミュレーション協力）

## 活動の広がり

### 地域への誇りが成長のステップに

2014年度は、全校生徒115名が191組483名を、2015年度は雨天日を含む2日間で、150組400名を案内しました。

1年目は、3年生のみの班で26組を案内し、2年目には観光客30組に小学生の校外学習案内も実施するなど、順調にガイドの幅を広げてきました。

また、子どもたちの成長においては、目的ごとに達成経過をまとめてみました。

現地で山の案内人の方々から助言も。

### 人間関係力・自己肯定感の醸成

ガイドを通して挨拶や笑顔が身につき、年齢差を障害としない人間関係力が培われています。また、初年度に比べて、案内する際の積極性や地元への誇りが大きく育っている様子が見られ、自己や地域への自信が着実についていると言えます。

観光客の方々に笑顔で対応する生徒たち。

### 地域との連携

地域を代表する観光地の施設や協力団体、郷土芸能の保存会などに教えを受け、近隣の小中学校や観光物産協会などと連携し、内容の充実を図っています。子どもたちには、地域関係者との関わりの中で、地元八幡平に生きる誇りや喜びが育まれています。

地域の施設や団体が子どもたちをサポート。

### ふるさと・キャリア教育の充実

まず、ふるさとの魅力を知ることで郷土愛が生まれ、地元の良さを発信する経験が、リーダーシップや思いやりの心、目標達成能力など社会で必要な要素を身につける訓練になっています。また、感想からは、ふるさとで生きる気概も多く感じられます。

報告会で学んだことを共有し、次回に活用。

### ガイド指導・戸舘さんが見た 子どもたちの成長ぶり

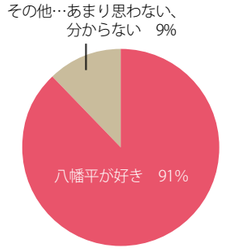
**戸舘 忠氏（山の案内人）**

初年度は、私たちがお客様を子どもたちのところへ誘導し、子どもたちは、原稿を覚えるのが精一杯といった自信がなさそうな感じでした。しかし、2年目に自分で声をかけて案内するようになると自主性が出て、3年目4年目には見違えるように積極的で素晴らしい案内になりました。また、最初は地元の山でも行ったことがなく関心が薄かった子どもが、自分で案内し始めてからは関心を持って覚え、愛着を持って熱心に説明できるようになりました。この2点で大きく成長したなと実感しています。



## 参加した皆さんの声

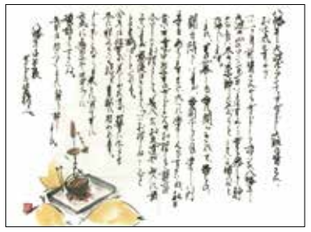
- ■ 観光客の方々に喜んでもらい、ほめられて嬉しかった。（1年生）
- ■ ガイドを通して充実感や達成感が得られた。（3年生）
- ■ 地域の方たちから、知らないことを教えていただけた。（2年生）
- ■ 人との交流や言葉遣いは、今後に役立つと思った。（2年生）
- ■ 縦割り班の中で、コミュニケーションがとれて良かった。（2年生）
- ■ 八幡平中の誇れるものとしてガイドを続けていってほしい。（3年生）
- ■ お客様の笑顔を見たことで、とても幸せな気持ちになった。（3年生）
- ■ 「こんなに近くに誇れるものがあっていいね」と言われて嬉しかった。（1年生）
- ■ ガイドの経験を通してリーダーシップが身につけられた。（3年生）



アンケートでは、八幡平が好きと答える生徒が年々増加。グラフは平成27年度：年度末評価。

「八幡平の良さをもっと伝えたい」誇りを胸にガイドを行っています。

ガイド終了後は、達成感に満ちたこの笑顔！


ガイドした方々からの感謝の手紙が励みになります。

## 3つの工夫

**進める工夫**

初めてガイド活動に触れる生徒たちにも内容の把握や練習がしやすいように、基本マニュアルを用意しています。また、ガイド地では、温泉施設や地域ボランティアの方々に協力を得て円滑に活動を進めています。告知やPRについては、観光物産協会や市の教育委員会、小学校と連携して取り組んでいます。さらに、保護者や生徒、教職員へのアンケート結果を活動に反映しています。

**広げる工夫**

中学1年生が、小学校の高学年時に収穫した「八幡平あきたこまち」を観光客にプレゼントするなど、近隣小学校と連携し、お土産という形でも地域のPRにつなげています。同じようにガイドに取り組む隣接中学校との連携も進めているところです。また、郷土芸能の保存会、地域の物産関係事業所と連携して活動の幅を広げ、子どもたちが郷土を愛する心を育む活動を展開できるよう活発に協議の場を設けています。

**続ける工夫**

保護者への調査では、この活動への支持は84%と高い数値が得られています。また、活動の継続には移動方法が課題となっていましたが、市の教育委員会の協力により、市バスの活用が認められたことで移動手段が確保できました。今後は、保護者の高い支持の継続や教育効果の伸長を図るとともに、地元農産物や郷土芸能の紹介、観光地の紹介を通して、地域全体が活性化できるような取り組みの構築を目指しています。

修学旅行でも配布した「鹿角のみどころ」パンフレットを配布。

小学校で収穫した八幡平産あきたこまちを記念にプレゼント。

**将来の活動の方向性**

中学生によるボランティアガイドという活動について、活動を継続していく中で、地域や保護者の理解が得られるようになってきました。今後はさらに、現地での郷土芸能の紹介や、地元経済団体との連携による物産PR・観光PRへの取り組みを検討しています。また、この活動が地域の元気の源となり、少子高齢化が進む当地域を明るくする材料になることを目標に、活動を進めていきます。

連絡先
●所在地：〒018-5141 秋田県鹿角市八幡平字諸田4-1 ●TEL：0186-32-2226 ●FAX：0186-32-2227
●E-mail：hachimantai-jhs@ink.or.jp ●HP：http://www.ink.or.jp/~hattyuu/shindex.htm ●代表者：澤口 康夫（校長）／担当者：駒木 利浩（教頭）

## 優秀賞 一般財団法人 キッズ・メディア・ステーション【宮城県仙台市】

### つくる力・つたえる力・つながる力を育む「石巻日日こども新聞」

活動領域 **学校** 家庭 **地域** 企業 | 3つのこころ **自分に** **他者に** **社会に**

**選考理由**
震災で壮絶な体験をした子どもたちが、表現によって心のアウトプットを図っています。地域を知り、伝え、広げていくキャリア教育が企業やNPO、学校との連携で成果を上げています。

仙台で行われたサッカースクールで英国マンチェスター・ユナイテッドの取材をする小学生。

上／グループで校正を行う小学生たち
下／年長者と年少者が組み印刷に立ち会っています。

石巻日日こども新聞

### 活動内容

**震災を乗り越えて力強く生きる力を身につける**

東日本大震災の壮絶な体験が子どもたちの心のトラウマにならないためには、表現し心の中からアウトプットすることが必要と考え、「つくる力（表現力）・つたえる力（コミュニケーション力）・つながる力（行動力）」を育み、力強く生きる力を身につけること、地域内外に災害の記憶を伝え、関心と備えを喚起することを目的に、石巻の子どもたちによる取材活動で石巻の今を伝える「石巻日日こども新聞」を発行しています。石巻日日新聞社の協力を得て2012年3月11日に創刊。ブランケット判カラー4ページの新聞を年４回発行し、2015年12月現在の発行部数は5万部。並行して、表現力やコミュニケーション力を磨くワークショップも開催しています。

**子どもたちの変化・成長**

子どもたちは取材によって自分と類似の体験や同じ思いを持つ人に出会い共感することで心を癒し、経験や気づきを情報として発信すること、地域や社会を知り、よきロールモデルとしての大人と出会うことでモチベーションを高めています。

**参加者の声**

- 活動を始めた小6のころは人前に出るのが苦手だったが、記者活動を通じて自分の意見を言えるようになった（高1）
- 取材で人に会うことが刺激になる。その力がバネになる（中2）
- 文章力がついたと友人からほめられるようになった（中2）
- 幼稚園の取材で出会った先生のようになりたいと思う（小6）

### 3つの工夫

**進める工夫**
子どもたちは地域とその歴史への関心が芽生え、郷土愛を育み始めています。また、国内外読者との交流や地域外への取材の機会も増えてきたことから、文字媒体だけでなく、映像、音声、パフォーマンスなど表現の仕方を広げています。

**広げる工夫**
寄付者である「こども記者サポーター」に普及協力もお願いし、国内各地および海外（イギリス、フランス、アメリカなど）に読者を広げています。活動開始から10年目となる2021年までに有料読者を1万人に増やすことが目標です。

**続ける工夫**
年長者が年少者の面倒を見ること、子ども同士で教えあい引き継いでいくことを奨励し、常に新規参加や新しい世代を歓迎しています。将来、「こども記者」経験者がさまざまな形で地元に根付く存在となることを目指しています。

**将来の活動の方向性**
震災がきっかけで始まった「子どもの・子どもによる・子どもと大人のための情報発信活動」を、新聞というメディアとして地域に根付かせ、そのノウハウを地域内外に広げて、子どもの意見と発想を広く社会に伝える活動を目指します。

### 活動の広がり

**●地域内外との連携**

新聞づくりについては、地元新聞社・石巻日日新聞社の全社的な協力を得ているほか、普及・配布については、石巻日日新聞への折り込みほか、国内外の寄付者である「こども記者サポーター」、NPO石巻復興支援センター、石巻市教育委員会、東松島市立大曲小学校にも協力をいただいています。

**●多彩に広がるコンテンツ**

つくる力・つたえる力・つながる力をつけた子どもたちの表現活動は新聞のほか、子どもたちの会話をラジオ番組風にまとめてYoutubeで公開する「石巻日日こどもラジオ」や、東日本大震災を伝える高校生の写真展「ツタエル」、子どもたちのオリジナルシナリオ「女の子スパイいしのまき」など、多彩に広がっています。2015年４月からは中学生以上の記者が石巻ゆかりの年配者に取材し、写真と文章でかつての石巻を綴る「わたしの心に残る石巻」の連載が石巻日日新聞で始まりました。

連絡先 ●所在地：〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉5-3-47-202 ●TEL・FAX：022-721-3143
●E-mail：info@kodomokisha.net ●HP：http://kodomokisha.net ●代表者・担当者：太田 倫子



## 優秀賞 とどろみの森学園～箕面市止々呂美小・中学校【大阪府箕面市】

### とどろみに生きる

活動領域 **学校** 家庭 **地域** 企業 | 3つのこころ **自分に** **他者に** **社会に**

**選考理由**
９年間を見通して、地域の自然や産業、さらには人間や社会を理解し、愛情を育てるというトータルな取り組みが、形式的ではない真の体験学習となり、地域への愛着と参加意識を育んでいます。

里山整備への協力で斜面の木のない所に植樹する６年生。

左／防災キャンプにおいてロケットストーブで炊飯する５年生。
右上／クヌギの木の枝を切りそろえて炭焼きの原木づくりをする7年生。
右下／里山整備への協力で間伐体験をする８年生。

### 活動内容

**地域への愛着と参加意識を育む９年間**

地域の自然を愛し、地域産業を守り、受け継いでいく使命を自覚することで、自分や周りの人、社会を見つめ、たくましく生き抜く人を育てることが活動の目的です。小・中一貫教育の利点を生かし、１年生～９年生の縦割り活動、全教員が年1回ずつ行う研究授業、全学年に共通した学びのスタイルの確立など、子どもたちの生きる力を育む「モリ森プラン」を作成。また、地域と密に連携し、花いっぱい運動、びわの袋かけと収穫、シイタケ栽培、栗拾い、防災キャンプ、川学習、稲作、カブトムシ・オオムラサキの飼育・放蝶、里山への道づくりと植樹、炭焼き体験、間伐体験など、多彩な自然・産業体験を各学年で行っています。

**子どもたちの変化・成長**

自然や動植物を愛する活動を通して、やさしさや思いやりを持つ子どもたちが育っています。また、地域の人々との結びつきが強まり、子どもたちは感謝の気持ちを持つとともに、里山の暮らしや環境について考えるようになっています。

**参加者の声**

- 里山の様子を見たり間伐体験をしたりして、自分の今すべきことは何かと考え行動できるようになった（８年生）
- 炭焼き体験においてクラスで何かをやり遂げる楽しさや達成感を味わうことができた（７年生）
- ノコギリで竹を切るのは、思ったより力がいって大変だったけど楽しかった（５年生）

### 3つの工夫

**進める工夫**
学びと心の育ちを目指す「モリ森プラン」を作成し、縦割グループによる掃除やオリエンテーリング、ランチなどの活動を行うほか、毎年行う学力体力生活調査「ステップアップ調査」をもとに弱点の克服に努めています。

**広げる工夫**
NPO法人とどろみの森クラブや箕面整備事務所、池田土木事務所といった公的機関との連携を深めて地域から学ぶ活動を進めるとともに、青少年を守る会、自治会、PTA、地域農家の方々の協力を得て、多彩な活動を行っています。

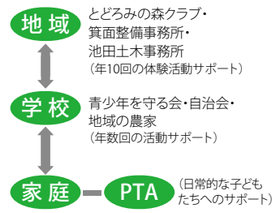
**続ける工夫**
学校ホームページの毎日更新や学校便りの保護者・地域配布で、子どもたちの学びと心の育ち、活動の様子を情報発信。国内外からの視察を受け入れ、毎年公開授業研究会を実施して、意見交流や改善に努めています。

**将来の活動の方向性**
止々呂美の里山を守り受け継ぎ、地域で誇りを持って生きていくために、①地域産業の理解と伝統の継承、②里山の生き物保護・愛護、③余野川と暮らしの結びつきの理解を深め、稲作と水の関連を追究する、という3本柱で活動していきます。

### 活動の広がり

**●縦横に広がる連携体制**

地域、学校、家庭(PTA)という横のつながり、１年生から９年生までの縦のつながりを通して、子どもたちが多様な体験をサポートする体制を整えています。



連絡先 ●所在地：〒563-0257 大阪府箕面市森町中1-23-14 ●E-mail：todorominomorigakuen@mail1.koumusb.net
●HP：todorominomorigakuen@mail1.koumusb.net ●代表者：市原 義憲（校長）／担当者：奥畑 仁（教頭）

## 奨励賞

特定非営利活動法人 湘南市民メディアネットワーク
【神奈川県藤沢市】

# 映像制作授業・ワークショップによる青少年育成・自立支援・社会参加事業

活動領域：**学校** 家庭 **地域** 企業　3つのこころ：**自分に** **他者に** **社会に**

**選考理由**

青少年育成に映像制作を用いる切り口が、現代的でユニークです。7年間の実績は多くの専門家と子どもたちの興味を引き込み、今後のブラッシュアップに期待できる効果的な活動になっています。

映像制作ワークショップで撮影する子どもたち。

右/学生によるNPO団体のPR映像制作風景。
左上/映像を確認し、笑顔に。
左下/映像フォーラムで作品を発表する様子。

## 活動内容

**青少年の育成や自立、学生の社会参加を目的とした映像制作の支援活動です。**

さまざまな環境の青少年を対象に、映像制作の授業やワークショップを行い、社会や世界への新たな視点の発見や、表現力、コミュニケーション能力を高める機会を作っています。

総合高校や大学の学生には、NPO団体のPR映像作りを指導。地域の課題と、その解決に向けて活動する人々から社会を学ぶ場となっています。

さらに、上映会や映画祭などの作品発表においては、参加者各自が視点の持ち方や多様性を学び、認め合いながら自己肯定感が高められるようサポートしています。

**子どもたちの変化・成長**

学生たちは、地域の課題に取り組む人々の取材や映像表現を通して成長し、社会参加を果たしています。

また、不登校・ひきこもりの青少年たちは、映像制作を通して人や作品の魅力、自己の役割を発見し、自己肯定感を高めています。

### 参加者の声

- 普段は知らないNPO団体の方の話を聞くなど、知らない世界や想いに触れ、映像で伝えたくなった。（高2）
- カメラを向けると新しい発見があり面白かった。（中3）
- 失敗しても、仲間の掛け声でやる気になれた。（小5）
- 持ち味を活かすモノづくりの貴重な体験ができた。（高3）

## 3つの工夫

**進める工夫**

映像制作による青少年育成・自立支援活動では、社会学者や臨床心理士、メディア系有識者、支援団体でワークショップを検証し、現場に生かしています。効果的なプログラムをまとめた冊子と作品DVDも制作し活用しています。

**広げる工夫**

NPO団体のPR映像制作支援活動では、成果発表とPRのため毎年映像祭を開催。（一部は動画配信）また、青少年育成・自立支援活動ではフォーラムを開催。作品発表と交流、映像制作の青少年支援への有効性を伝えています。

**続ける工夫**

映像制作ワークショップや講座を行う全国の団体、有識者と交流し、情報交換や勉強会を実施。また、自作の青少年支援・映像制作ガイドブックを教育団体、青少年支援団体に配り、映像制作効果の周知を図っています。

**将来の活動の方向性**

現在、学童保育や小中学校など公教育内へも映像制作体験・授業の実施を提案中です。今後は、指導対象や交流範囲を広げ、より多くの青少年の自己肯定感や社会力、コミュニケーション力の向上に寄与できる活動を目指していきます。

## 活動の広がり

7年間の活動で、地域の理解が深まり、協力体制が充実しました。さらに、映像制作による青少年育成・社会参加のフォーラムを開催し、賛同する団体との交流の幅を広げています。

**湘南市民メディアネットワーク**

『NPO団体のPR映像制作を通しての学生の社会参加』
↓ NPOのPR映像制作授業開催
●産業能率大学　●藤沢総合高校
●クラーク記念国際高校　等
↓ 学生が取材、協同しながら相手先NPOのPR映像制作
■神奈川県内のNPO団体
（例）湘南DVサポートセンター、湘南藤沢文化ネットワーク、セイラビリティ江の島、藤沢サンクチュアリ、湘南ビジョン 等
↑ 学生のPR映像制作協力依頼
『映像作品制作を通しての青少年育成・自立支援』
↓ 映像ワークショップ開催
●藤沢総合高校　●辻堂青少年会館 映像制作 クラブ
●青少年支援団体
（フレンドリースペース金沢、フリースペースたまりば、子どもと生活文化協会　等）

連絡先 ●所在地：〒251-0052 藤沢市藤沢93 新堀ライブ館2階　●TEL・FAX：0466-47-7765
●E-mail：info@scmn.info　●HP：http://scmn.info　●代表者：森 康祐　●担当者：中野 晃太





**子どもたちの“こころを育む活動”**
**2014年度受賞団体**

# この1年（2015年）の活動紹介

子どもたちの「こころを育む活動」を支援する全国運動は、2008年度より優れた活動を支援し続け、2015年度で8回目の表彰となりました。受賞された皆さまの多くは、その後も精力的に活動を継続されています。ここでは、2014年度受賞者の皆さまの受賞対象となった活動と、受賞後の活動についてご紹介いたします。

## 2014 全国大賞

### 仙台市立南吉成（みなみよしなり）中学校
【宮城県仙台市】

**多様な体験的活動を取り入れた持続発展教育**
～大震災の復興支援活動と防災教育を通じて、“支えられる人”から“支える人、支え合う人”へ、心と姿勢の変容を目指す教育実践活動～

生徒の「復興のために何かしたい」という声を実現し、大震災の教訓から「自分にできること」を考えて実践する自律心、判断力、責任感などを培うことを目的に、復興支援活動や防災教育を行っています。

復興支援として「津波被災農家に弟子入り体験」を、防災教育では「中学生が主導する地域防災訓練」を毎年実施。学校・地域支援組織「チームMY・SP」を設立し、地域ぐるみで活動を展開しています。

**2015年の活動　地域の一員としての自覚と絆が深まる活動に**

継続して「津波被災農家弟子入り体験」と「地域防災訓練」を実施。「津波被災農家弟子入り体験」では、学校内での綿花栽培を試み、農家の方々の苦労をより体験することができました。また、「地域防災訓練」では、町内会長さんにお話を聞き、異年齢（縦割り）班で居住地域の危険箇所を調査する「地域探検」を実施。訓練時に発表し、お褒めの言葉をいただくなど、地域との絆が深まりました。

上/秋に綿花を収穫。夏は除草も。
下/「地域探検」の結果を発表する子どもたち。

●所在地：〒989-3204仙台市青葉区南吉成5-18-2 ●TEL：022-277-4377 ●FAX：022-303-4328
●E-mail：chikufu@sendai-c.ed.jp ●HP：http://www2.sendai-c.ed.jp/~chikufu/ ●代表者：佐藤 郷美／担当者：千葉 仁

## 2014 優秀賞

### 北海道中標津（なかしべつ）農業高等学校
【北海道標津郡中標津町】

**食育プログラム「計根別（けねべつ）食育学校」**

地域の幼稚園・小学校・中学校の子どもたちを高校に招き、発達段階に応じた継続的な食育活動を行っています。各種野菜の栽培から加工、調理までを体験し、農・食・命を考える心と郷土愛を育んでいます。

**2015年の活動　地域の食農一貫教育の再構築を**

今年度から計根別小学校・中学校が計根別学園という小中一貫校になったことから、地域の食農一貫教育の再構築を目指し、幼稚園児は「感じる」、小学生は「学ぶ」、中学生は「考える」というキーワードで活動しました。

活動開始から10年。高校生の指導のもと小学生は地域農産物であるジャガイモ、小麦の栽培を通して収量調査に挑戦しました。

●所在地：〒088-2682 北海道標津郡中標津町計根別南2条西1-1-1 ●TEL：0153-78-2053 ●FAX：0153-78-2465
●E-mail：Nagri-gyomu@ed.nakashibetsu.jp ●HP：http://www1.nakashibetsu.jp/nagri/ ●代表者：小池 博志／担当者: 仲本 大輔

## 2014 優秀賞

### 精華（せいか）町立東光（ひがしひかり）小学校
【京都府相楽郡精華町】

**やさしい町つくり・やさしい人つくり**

地域の団体や施設と連携して「認知症キッズサポーター講座」を実施。小学4・5・6年生を対象に、高齢者施設での体験も含む段階的なプログラムによって、子どもたちの認知症の知識を深め、思いやりの心を育んでいます。

**2015年の活動　小学校から地域へ大きく広がる活動**

「認知症キッズサポーター講座」が町内全5小学校と2中学校へと広がり、本校で月2回高齢者対象「認知症予防教室」が開かれたほか、児童と高齢者の交流等も新しく行いました。「精華フレンドシップコンサート」は3回目になりました。

小・中・高の児童・生徒が音楽で人を集め、各種福祉団体が啓発活動をする「精華フレンドシップコンサート」。

●所在地：〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台7丁目43番地1 ●TEL：0774-95-0400 ●FAX：0774-95-0401
●E-mail：higashihikari-es.p@edu.town.seika.kyoto.jp ●HP：http://www.kyoto-be.ne.jp/higasihikari-es/ ●代表者：山下 芳一

## 2014 奨励賞

### 特定非営利活動法人 奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」
【鹿児島県奄美市】

**子ども及び保護者、障がい者に対する相談支援活動**

子どもや保護者、障がい者に対する支援活動を行い、1983年より約3万件以上の相談に対応。学校や家庭に問題を抱えた子どもたちを受け入れ、地域と連携して生活援助・自立支援・就労支援を実施しています。

**2015年の活動　地域の協力による多様な自然体験、職場体験**

関係機関との連携に加え、地域の方々と自然体験活動（里いも掘り、稲刈り）をしたほか、IT関係・農家・新聞社・ガソリンスタンドなどの職場体験を行い、子どもたちの仕事に対する意識向上を目指しました。

地域の方々と一緒に里いも掘りをする子どもたち。

●所在地：〒894-0036 鹿児島県奄美市名瀬長浜町23-25 ●TEL：0997-56-8202 ●FAX：0997-56-8202
●E-mail：yuzuriha@gamma.ocn.ne.jp ●HP：http://yuzurihanosato.net ●代表者：前田 勝美／担当者: 富川 玉緒

# 歴代全国大賞受賞団体

## 子どもたちの“こころを育む活動”表彰
## 歴代の全国大賞受賞団体（2008年度～2014年度）

**2008年度**

**公益社団法人 群馬県助産師会（群馬県）**
〒373-0018 群馬県太田市丸山町250-7／TEL.0276-37-5198

テーマ 子どもの自己肯定感を育む「いのちの講座」

**2009年度**

**山形県立置賜（おきたま）農業高等学校演劇部（山形県）**
〒999-0121 山形県東置賜郡川西町大字上小松3723／TEL.0238-42-2101

テーマ 農業高校の視点から、食を伝える食育ミュージカル

**2010年度**

**特定非営利活動法人 オバパト隊（熊本県）**
〒862-0913 熊本県熊本市尾ノ上1-39-15／TEL.096-381-2447

テーマ 高齢女性パトロール隊による、安心安全な子育て環境づくり

**2011年度**

**石樽（いしぐれ）の里コミュニティ（三重県）**
〒511-0266 三重県いなべ市大安町石樽南611いなべ市立石樽小学校内／TEL.0594-78-0002

テーマ 地域全体で子どもを守り育てるための学校と地域による組織づくりと協働活動

**2012年度**

**東中ファミリーサポーターズ・東中地域活性隊（兵庫県）**
〒664-0021 兵庫県伊丹市高台2-54伊丹市立東中学校内／TEL.072-782-3058

テーマ 地域・学校・家庭と生徒たちによる循環型の地域活性活動

**2013年度**

**熊本市立出水南（いずみみなみ）小学校（熊本県）**
〒862-0941 熊本県熊本市中央区出水4-1-1／TEL.096-363-5671

テーマ 小学校と支援学校の子どもたちが学び合い、成長し合う交流活動

**2014年度**

**仙台市立南吉成（みなみよしなり）中学校（宮城県）**
〒989-3204 宮城県仙台市青葉区南吉成5-18-2／TEL.022-277-4377

テーマ 大震災から学び、前に進む力を培う、復興支援活動と防災教育

●詳しい活動内容はホームページで紹介しています。



# パナソニック教育財団 紹介

## ー「未来をつくる創造力と豊かな人間性」を育むー

パナソニック教育財団は、1973年にICT教育の振興を目的に設立され、 40年以上にわたって、小中高等学校等の教職員や研究グループを支援し、ICTを活用した教育の普及・拡大を目指し、研究・助成活動に取り組んできました。

現在は、2005年に立ち上げた「こころを育む総合フォーラム」と合わせ、公益活動の両輪とし、次世代を担う子どもたちの「未来をつくる創造力と豊かな人間性」を育む活動を行うとともに、その活動内容や研究成果を幅広く発信しております。

**学校教育に対する研究・助成事業**
「未来をつくる創造力と確かな学力」を培うために、ICTを活用し、実践研究に取り組む教育現場に対して助成等を行う事業

**こころを育む総合フォーラム**
明日の未来を担う子どもたちのために、「豊かなこころを育む活動」を広げ続けていく事業

### 学校教育に対する研究・助成事業　2015年度活動

#### 実践研究助成

ICTを効果的に活用して、教育内容及び教育方法の改善等に取り組む実践的研究を募集(前年度の12月～1月)
「一般」と「特別研究指定校」の2種類

| | |
|---|---|
| 一　般 | ①助成金…… 1件あたり50万円<br>②助成期間… 1年間<br>③助成件数…74件 |
| 特別研究指定校 | ①助成金…… 1件あたり150万円<br>②助成期間… 2年間<br>③助成件数… 6件 |

4月に助成金の贈呈を行い、1年間授業実践と研究活動を行い、翌年の夏休みに成果の発表を行います。

助成金の贈呈

実践活動

成果の報告

#### 共同研究

学校現場でのICTの活用をより効果的にするために、関係団体等と共同研究を実施

**ワンダースクール応援プロジェクト**

2年目を迎え、1人1台端末の成果を授業で公開。また、授業での活用効果を測定し、分析を行う。

**研修モデルの検討**

教育委員会等とICTを効果的に活用する研究会を立ち上げ、授業モデルの検討や研修会の仕組みを研究。

公益財団法人 パナソニック教育財団
http://www.pef.or.jp/
詳しい内容はホームページで紹介しています。